動工場に行こう!

朔治初期から中期にかけて「勧工場(勧業場ともよばれた)」 という店が多くできた。 勧工場は、1つの建物を小さい 部屋に仕切り、いろいろな商人に貸して全体を運営する もので、人が多く集まるところにつくられた。

ままうばしかんぎょう ば 京橋勧業場

1902 (明治35) 年に東京市内にあった 新工場は27で、そのうちの7つが京橋区(→p,89) にあった。 右の絵はそのなかの1つ、京橋新業場のようすを表したもの。

すみでは、店の人が火鉢

にあたり、弁当を食べて

いることもあった。



いらっしゃい

朝は8時から、 夜は9時くらい まで崩いて いたんだって!





道路は2mくらい。

みんな 楽しそうに 買い物して いるね!

商品は残りものだった!!

はじめての勧工場は、1878 (明治11) 年に 商品は第1回内国勧業博覧会に出された品 物で、日本に苦くから伝えられる美術工芸 品などだった。



客が自由に手

に取って覚ら

れるように、

品物はずらり

と並べられて

いた。



1877 (明治10) 年8月21日から11月 30日にかけて、東京の上野公園で開催された。殖産興業政策の1つで、技 術向上のために開催された博覧会。









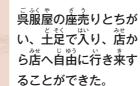
みたい。



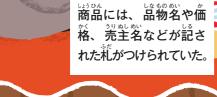
がいこく ゆ にゅうひん 外国からの輸入品を 売る唐物屋(洋物小 まものどんや は人気で、 1つの勧工場のなか に何店も入っていた。

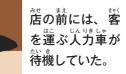














X III



人の流れを平等にするた めに、首によって入り首 と出口を逆にした。入り (する) だいだい あるのとな いのとでは、売り上げの 差が大きかった。





